

WE THINGS

GOOD MANNERS DOG TRAINING

第六章

ご挨拶（犬と人）

飼い主以外の人との関わり

自身と他犬の関わり

飼い主以外の人との関わり

自身の愛犬であるパートナーとお散歩に出かけた先で、ばったり大好きな人に出会う経験、おそらくみなさん一度はあると思うのですが、そんなときみなさんはどのように関わりを持っていますか？

ここでも大事なのはやはり、パートナーである犬の気持ちです。

パートナーの状況を確認した上で、その人との関わりをどうするか判断した方が良いでしょう。

自分のパートナーをかわいいと言ってもらえるのは飼い主として素直に嬉しいですし、人間社会で生きているので、できるだけたくさんの人と良い関わりをしてほしいと私は思っています。

ただ、そういう思いはあるものの、犬にもまた思いがあるわけです。

その時パートナーが「関わりたい」のか、「関わりたくない」のかの意思を尊重するようにしています。

その人と関わりを持ちたい様子であれば、許可の合図をかけてご挨拶を始めます。

(第三章四ページ参照)

様子を確認して許可の合図を出すまでは、相手の方にその場で待つてもらおう事をお願いするとこちらも準備がしやすいですね。



*流れ

①パートナーの確認

関わりたい様子が確認できた

②相手の方にそちらに向かう事を伝える

③相手の方に静かに待ってもらう

この時、相手の方には出来るだけ落ち着いて接してもらうようお願いすることも忘れられないポイントになります。

逆に、パートナーが関わりを持ちたくなさそうにしていたら、そこは相手の方には一言お断りを伝えるようすると良いと思います。

少し申し訳ないなという気持ちも確かにありますが、そこはパートナーの気持ちを尊重する事ができたので、これでよかったと納得できます。

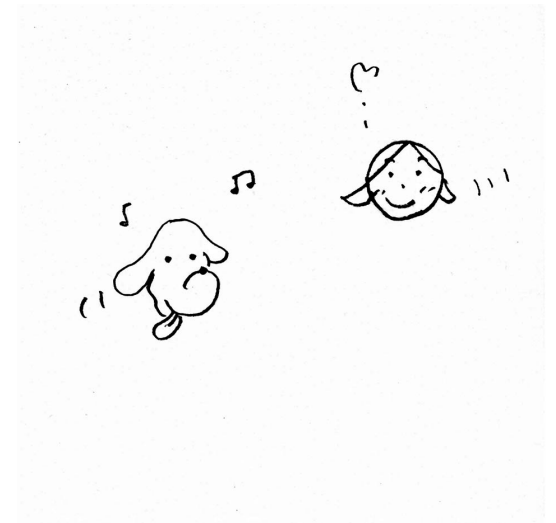
人間同士で考えてみると、例えば小さなかわいい赤ちゃんを見かけると大抵は、「ほっぺたプニプニしてみたい」とか、「抱っこしてみたい」とか、やはり関わりたいという気持ちが生まれると思います。

そこで思ったら即行動！と言うことはなく、そんな時はやはり親御さんにまずは関わっても良いか確認しますよね。

その時「どうぞ」と言ってもらえたらスキンシップの開始ですし、「すみません、少し人見知りなんで…」等と言われれば、「それだったら仕方ないな」と納得できると思います。

また、当然ですが人間の赤ちゃんや子供は大人と同じ言葉で話せません。

なので赤ちゃんや子供には「どうしたの?」「何か欲しいの?」「どこか痛いの?」など、気持ちや思いを一生懸命に探りますよね。



少しそれでしたが、そういった様子を探る行為は、人間の言葉で話さない犬にも積極的に行う事が、犬の意思を尊重する上で必要だと感じています。

自身と他犬との関わり

自分が他の犬と接する時に気を付けている事を少しお話ししたいと思います。

自分のパートナーが宇宙一かわいい！！大好き！！
この気持ちに揺るぎはないですが、よそで会う他犬への「かわいいなあ」の気持ちも生まれますよね。

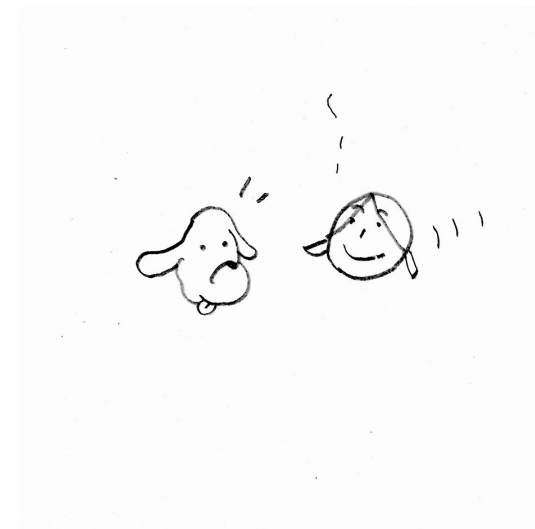
「かわいいなあ」から「触りたいなあ」「遊びたいなあ」という願望が私は生まれます。

しかし、これは心の中で思う存分言いますが、真っ先に行動には起こしません。

ぐっところえます。

[第五章]でも述べたように「何も起きなかった」の経験がまずは大事だと考えています。

次に、初めて会う犬と接する時の様子をご紹介しますと思います。



他犬に関わりたい時の取り組み

*流れ

- ①静かに犬の様子を見たり、飼い主さんに確認
- ②相手側から近づいて来てくれるのを待つ
- ③近づいてくれたという事で私に興味をもってくれたと判断する。
※ここで近づいてくれたからといって「よ～し、きたかきたか」と
いって触ったり、大きな声を出したりしない
- ④犬が誘ってくれる仕草を確認したら触ったり遊んだりに移る

このようにまずは「自分にとって何もしない人」と認識してもらいます。

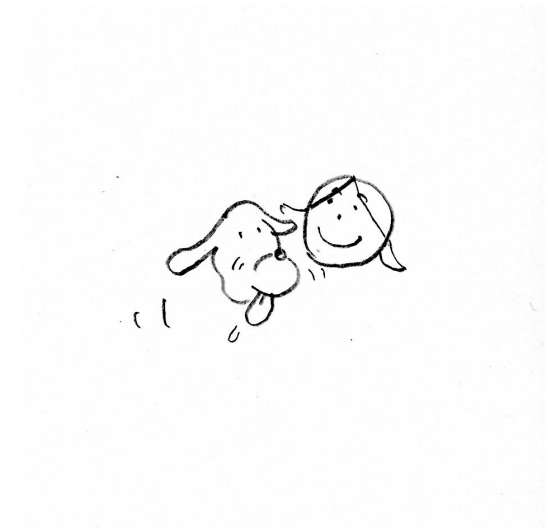
犬がどうしたいのかがわかるまではこちらからアクションは起こさないようにしています。

そして上記の関わりのおやつなどの食べ物も出てきますよね。

あげたくなりますが、これもぐっところえます。
なぜあげるのかまで考える必要があるからです。

犬たちは食べ物が出る直前の事をよく覚えるという事が研究でわかっているのですが、つまりどうすれば食べ物を得る事が出来るのかを常に真剣に考えているという事がわかります。

こちらが無意識にあげている時でも、犬たちは真剣に考えていると思うと、おやつをあげる理由をこちらも真剣に考えないといけないと思っています。



例えば、少しシャイな子が頑張ってこちらに近づいてくれた時など、ありがとうや、勇気を出せてすごいねの気持ちを込めてあげたくなる事があります。

そんな時は飼い主にまず確認します。「許可」がもらえた時に、飼い主さんからおやつを分けてもらってあげるという風になっています。

余談ですが、お散歩に出かけると他に犬を連れて人や犬好きだけど犬は連れていないなど当然様々な人に会う訳で、色々な光景を目にします。

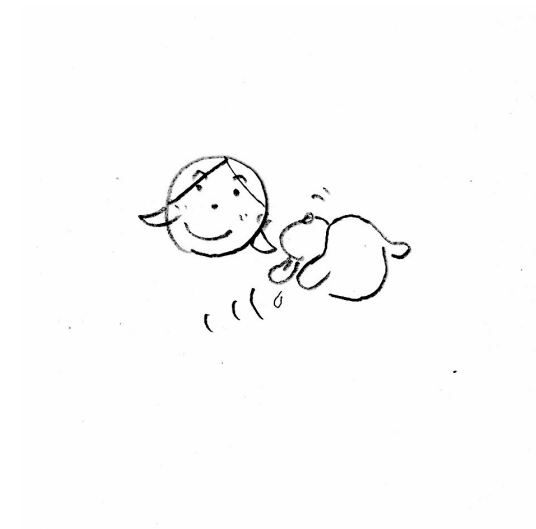
そんな中でたまにおやつマシーンの如く、会う犬みんなにすかさずおやつをひたすらあげる方をみかける事があります。

もちろん犬はその人から（出るおやつから）離れなくなるわけで、それがまたその人には近くに犬たちが寄ってくる様子になるので、嬉しく感じられるところなのかもしれませんが、そこも配慮があれば嬉しいなと思います。

犬がかわいいとか、犬が好きだという気持ちは同じですし、それは本当に素敵な事です。

その気持ちは誰にも止める権利はないです。ですので、一緒に遊ぶとかならいいのです。むしろ、一緒に遊んでもらえたならとても嬉しいです。

ただ、食べ物となると話しは別です。



アレルギーがあるかもしれない。
手術や検査を控えていて食べてはいけない状況かもしれない。
etc...

このように先述した「おやつの意味」以外にも無意識にあげたおやつでその犬の生死に関わる事が起きるかもしれません。

私は、もし出会った方と私のパートナーが素敵なお挨拶が出来た時、出会った方が食べ物をあげたそうにしていたら、こちらの持っているおやつをあげてもらえるよう、いつもポケットにはおいしいおやつをスタンバイしています。

そういった考えの方が増えて、犬が好きだからこそその気持ちを大切に、関わっている犬へどのような影響を与えるかまで、配慮していただけるような社会になってほしいなと思っています。

